富里歴史講座

「縄文時代の富里」

於：富里市立図書館

2005・10・23
林　田　利　之

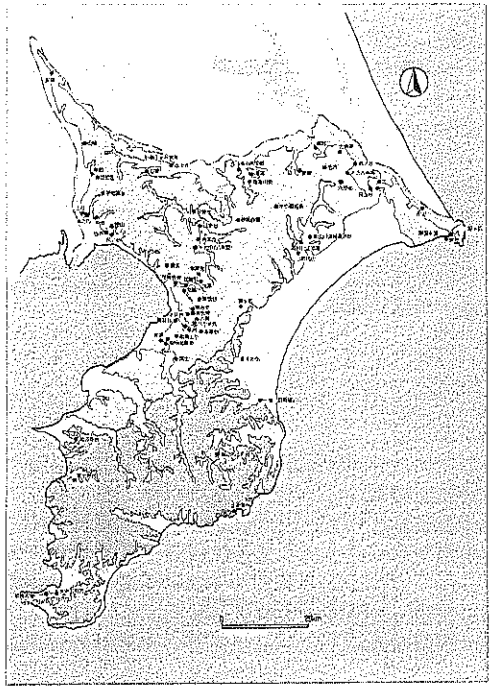
1．縄文時代の始まり

氷河時代の終わり頃になると気候は温暖化し，日本列島には，現在と同じような温帯の動物や森が現れました。縄文時代の始まりです。

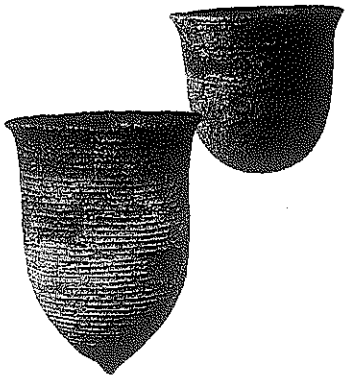
この新しい環境の中で，人は土器を使い始めます。それまでの，焼く・蒸すあるいは生のままの食事に"煮る"という調理方法が加わりました。肉や魚は煮汁とともに，一層おいしく食べられるようになりました。そして何よりも，アクの強い山菜やトチ・ドングリ・クリなどといった，栄養豊富な木の実の食用が可能になりました。また食料の少なくなる冬場に備え，木の実類の貯蔵も始まりました。さらに弓矢や釣り針・漁網などの使用は，人々の生活を豊かにし，約９，０００年前には竪穴住居での定住生活が開始されたと言われています。

旧石器時代には存在しなかった土器が製作・使用されることが最も大きな画期となり，人々の生活は豊かなものへと変化したわけですが，今日，私たちその豊かな生活ぶり様々な遺物や遺構から窺い知ることができます。

富里市で発見された縄文時代の遺跡のお話をする前に千葉県内の遺跡などを概観しながら，『縄文』という時代がどのようなものであったのかを見てゆきたいと思います。



第１図　千葉県内の主な縄文時代遺跡位置



第２図　日本最古級の隆起線文土器

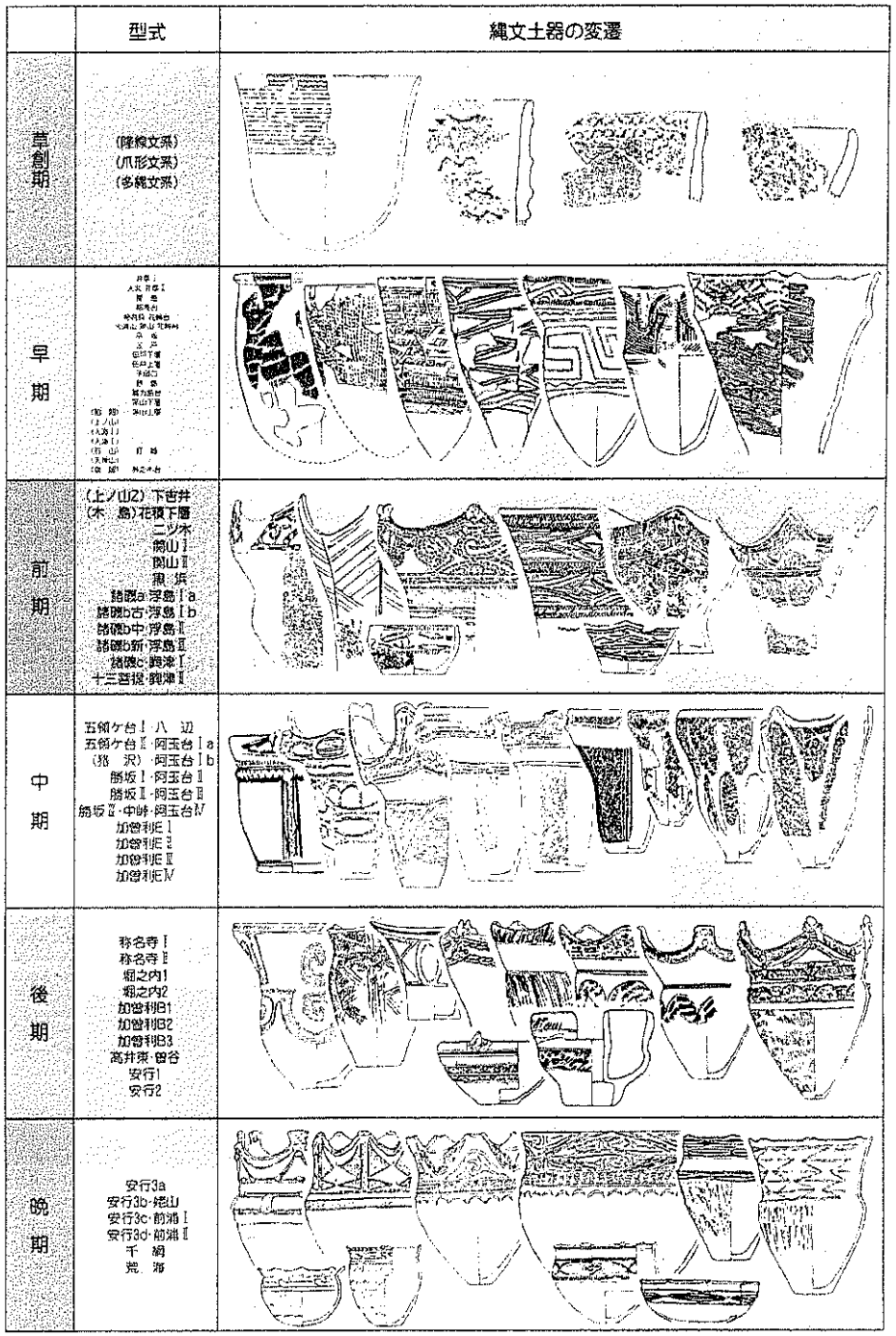
2．最古の土器を求めて

縄文時代の主役とも言うべき「縄文式土器」で最古の土器はどのような姿，形をしているのでしょうか？この答えを求めて多くの研究者が日本各地で発掘を行った結果，第２図に掲げた隆起線文土器が最古級の土器であることがわかってきました。

この土器は「縄文」の由来である縄目模様がついてはおらず，細い粘土の紐を波状に貼り付けた簡素な模様が特徴となっています。

隆起線文土器が作られた時期を草創期と呼びますが，その後に続く土器の文様の変化などから第３図に示したとおり，全部で６時期に区分されており，それぞれ模様や，形に特徴を持った土器が数多く製作されたことがわかってきています。

では，このように土器が発明され，使用された縄文時代とはどんな時代だったのでしょうか。



第２図　縄文土器の移り変わり